

ひと・夢・まち 町長コラム

「天」に問え。（平成31年4月号）

（西郷隆盛・十の「^{おし}訓え」vol.10）

先月、日米野球界が誇るプレーヤー・イチロー（鈴木一郎）が現役を引退しました。野球の世界で常に挑戦し続けた一人の人間が、静かにバットを納めたその瞬間、一つのことをやり遂げた姿があまりにも美しく、言葉に言い表せない時間でした。彼の行動は決して他人と比べることはなく、その結果に対しても自慢するなどという低次元のレベルでもなく、淡々と続けてきたことを当たり前のごとく話す姿が、何故か西郷隆盛とダブってしまいました。

「不可能」の反対語は「可能」ではない。「挑戦」だ。

米野球界全球団で「42」が永久欠番となっている米野球界初の黒人プレーヤー、ジャッキー・ロビンソンの言葉です。イチローも常に前向きに挑戦し続けたことを話していました。誰かに言われたわけでもなく、誰かの責任にするでもなく、「今、自分がやるべきことは何だろう」、「何が足りていないから、このような状態なのか」自問自答し、27年間野球の道を歩んできたのだと感じました。まさに西郷さんが言っていた「敬天愛人」そのものであり、天に問い、天を目指して命の炎を燃やしきった野球人生だったと思います。

西郷さんは、自らの正道は常に天命を果たすことであって、そのために、「天」を敬い、使命を受け入れることが、世の中や人を大切に作る道につながると考えていました。

今後は、「敬天愛人」・「南洲翁遺訓」について考えていきます。